

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
製作活動では、児童が主体的に学習を進められるように資料や実物見本などを用意し、実際に見たり触れたりしながら課題解決できるようにすることで、達成感をもたせられるようにした。	家庭状況が多様で生活経験に差があり、技能面での個人差が大きい。 与えられた課題には意欲的に取り組むことができるが、自ら進んで考えることには消極的な児童が多い。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
5年生	関心・意欲が高い児童が多い。調理実習は協力をし、苦手な部分も補っている。しかし、手先を使った細かい作業経験が少ない児童は、裁縫に苦手意識をもっている。	作業方法を理解させるために、実演を書画カメラで分かりやすく「見える化」する。また、グループ活動で教え合いができるようにしたり、小グループに教員が入って少人数指導したりする。
6年生	調理、裁縫共に5年で学習したことが生かされている児童が多い。しかし、裁縫については苦手な児童が数名おり、作品作りに時間がかかっている様子が見られる。	基礎が身についている児童と、苦手意識のある児童を同じグループにし、一緒に活動することで教え合ったり、協力し合ったりできる環境を作る。一つ一つ課題を解決し、作品を完成させることで達成感をもてるように指導する。

●学校全体で取り組む内容

道具や用具の安全な使い方を理解させる。グループ活動や「見える化」等、効果的な工夫を取り入れた授業を行う。実習では、保護者に作業補助のボランティアをお願いし、児童がよりスムーズに学習を進められる環境をつくる。
